

令和3年度 授業改善推進プラン 教科名（国語）

<p>学習状況と 課題分析</p>	<p>本校の生徒は関心をもって授業に取り組み、課題解決に向かおうとする意欲も高い。 授業は、まじめな態度で取り組み、前向きな姿勢で力を付けようという意欲をもつ生徒が多い。また、漢字検定取得に積極的に取り組む生徒も多い。 一方、自分の考えを書き表すことや、他者に伝えることにおいて、語彙力や表現の幅がなく、適切な言葉を使えない面が多々見られる。根拠を明確にして自分の考えを書き表したりすることに関しては、取り組む姿勢や論理的に表現する能力が不足している部分がある。また、思考したことを発信する、他者と意見を交わし、深め、より良く表現する力を育てていく必要がある。</p>	
<p>授業改善に向けての取組</p>	<p>基礎基本の充実</p>	<p>○国語の学習の基盤となる言語に関わる指導の充実を図る。特に全ての教科の基礎となる、言語活動の様々なスキルを身に付けることができるようにする。相手と目的を意識させながら、分かりやすく伝えるために、効果的に「書く」「話す」構成や展開の方法を学んだり、説得力のある話し方をするための技術を身に付けさせたりする。そのために、語彙の拡充を図り、授業中に互いの考えを述べ合い、深めさせるための話し合いの場面を多く設定する。</p>
	<p>主体的・体験的な学習</p>	<p>○授業形態の工夫……主体的・対話的に学習するために言語活動を積極的に取り入れる。具体的には、「課題について短く書く」「個人で取り組んだことをペアで話し合う」「グループ同士で互いの作品や発表を評価し合う」等が挙げられる。特に、小グループ（3～4人）の活動を多く取り入れてChromebookなどを用いて課題解決型の学習を多く取り入れていく。これらにより、自ら学び、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力・工夫をする集団を育てる。 ○言語活動の工夫……何のために、何の目的をもって活動を行うのかという学習目標を明確にする。「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けるように学習の過程の跡を残すように工夫する。活動のまとめでは、感想のみに留まらず、学習の過程を振り返り、学習の仕方や学習の成果が的確であったかを考えさせ、次の学習に生かせるように工夫していく。 ○デジタル教科書の使用…デジタル教科書を利用することによって、音声再生や文章抜き出しなどを手軽に行えることから、家庭での学習の手助けとなったり、意見をインターネット上で共有したり学習の効率化を図る。 ○授業の目標の明確化……授業ごとに目的、相手、分野などの「視点」を提示し、その視点から文章を書いたり話したりする指導をする。その上で、どのような点がよかったか、どのような課題があるかを明確にさせるように指導する。 ○朝読書の指導……「朝読書」の取組を通して、本に親しむ習慣を育て、読書や国語に対する意欲を高める。「朝読書」では、広い分野の本の中で日常的に読書に親しむ習慣を育成する。</p>
	<p>個に応じた指導</p>	<p>○生徒個々の能力や習熟度を的確に把握するために、授業中の観察や作品の評価を計画的に行う。 ○作品を評価する際、評価の観点・具体的目標を分かりやすくすることで、生徒自身が自らの課題を明確にできるようにする。</p>
	<p>評価について</p>	<p>○授業の目標を明確にして、指導と評価が一体となった授業の展開を目指す。また、生徒自らが自分の課題を知り、自分の国語力を伸ばせるように、適切に支援を行う。 事前の取り組みや活動中の評価及び支援、活動後の評価、説明も適切に行い、自分の学力を確認させる場を設定する。</p>